

遠野駅舎のいま

遠野駅舎は、内陸の花巻市と沿岸の釜石市を結ぶ釜石線が全線開通した 1950 年に竣工。戦後の復興を市民とともに歩み、中心市街地の象徴的存在として遠野市の街並み整備においても重要な役割を果たしてきた。

2014 年 9 月、JR 東日本は遠野市に駅舎の建て替えを提案。2015 年 1 月 15 日、新聞報道により、JR 東日本盛岡支社が「老朽化による遠野駅舎の縮小建て替えの方針」を示す。それを受け遠野市では、1 月 23 日、市民関係団体代表、市長・市職員等 54 名が集い「遠野駅舎の未来を考える会」を臨時開催、JR の方針、駅舎の現状・課題を共有(※1)。その後、市民主体の「遠野駅舎の未来を考える会」を立ち上げ、JR 東日本盛岡支社へ趣意書(※2)を提出した。以後、各会議やフォーラム、ワークショップ、各団体の駅舎を活用したさまざまな活動を開催。遠野駅舎の未来を考える市民ワークショップには、考える会のメンバーをはじめ、まちなか活性化に携わる関係団体、高校生等延べ 119 名が参加し、活用アイデアや将来に残したい遠野駅舎の姿が話し合われた(※3)。2017 年 6 月 5 日、JR 東日本盛岡支社へ協力体制構築について申入書を提出(※4)する。

2018 年 6 月 1 日、約 1 年ぶりに開かれた「遠野駅舎の未来を考える会」で、遠野市の環境整備部長より、駅舎を解体し同規模の新築に建て替える方針が示される。「構造が脆弱で保存には大変なお金がかかる」とする JR の説明に基づき「JR に保存の意志がない以上、遠野市も保存を諦めざるを得ない」とした。7 月 24 日、遠野市民有志が、JR 東日本に解体方針の撤回と情報開示、市による調査の実施をもとめ署名活動を始める。2019 年 2 月 25 日に開かれた会合では、解体・新築を推進する JR・遠野市に対し、考える会のメンバーからは、「活用に合わせて柔軟な構造補強は可能」との指摘や「解体ありきで合意形成の過程が見えない」などの意見が続出。議論は平行線をたどっている。

※1 遠野駅舎の未来を考える会情報共有資料

JR の遠野駅舎の取り扱い方針

- ①現駅舎は耐震上の問題から解体し、その後 3 分の 1 規模の新駅舎の建設を検討。
- ② Folklore 遠野(ホテル)は、2015(平成 27)年 3 月 14 日閉鎖。

遠野駅舎の現状と課題

- ①重厚な趣きある外観の駅舎は、市民はもとより観光客から評判が高く親しまれている。
- ②駅舎を中心市街地活性化のシンボルとして街並み景観を整備してきた。
- ③駅前には、駅舎と旅の蔵・あすもあ遠野が一体で遠野の風情を形成している。
- ④現在作成中の第 2 期中心市街地活性化基本計画(本庁舎整備・駅前通り再整備等)において現駅舎の存在は欠かせない。
- ⑤遠野駅乗客数は 2013(平成 25)年、1 日あたり 326 人と減少傾向にある。
- ⑥駅員 4 名。びゅう窓口閉鎖等により体制縮小。
- ⑦現駅舎に JR 側で耐震補強を施すと新築並みの費用がかかる。
- ⑧駅の北側と南側の接続が課題となっている。
- ⑨駅構内のバリアフリー化(エレベーター・エスカレーター整備)が課題となっている。
- ⑩駅前ロータリーの逆走防止対策が課題となっている。

※2 「趣意書」 平成 27 年 2 月 23 日

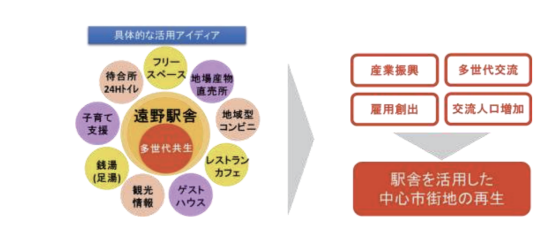
東日本旅客鉄道株式会社 執行役員盛岡支社長 嶋誠治様
遠野駅舎の未来を考える会会長 河野好宣 遠野市・遠野市議会

(内容抜粋)

「『永遠の日本のふるさと遠野』を標榜し、豊富な地域資源を活かしたまちづくりを進める本市にとって、市民はもとより全国から訪れる多くの人々から、遠野にふさわしい建物と評判の高い遠野駅舎は、まさに遠野が持つ地域資源であり、遠野の歴史そのものであります。」「現在の駅舎を、中心市街地の象徴的存在として街並みの整備に取り組んできた本市のまちづくりの歴史とともに市民及び多くの遠野ファンの心情をお察しいただき、今後の遠野駅舎の整備方針、工事時期などについては、解体の可否を含めて、本市との十分な話し合いのもと、納得のうえでの決定としていただくよう御配慮賜りますことを要望いたします。」

※3 ワークショップでの意見

- (1)メンバーが考える遠野の魅力
 - 「歴史と物語を今に伝える、自然景観・建物・人とその営み」
- (2)将来に残したい駅舎の姿(コンセプト)
 - 「まちの歴史と魅力が詰まった 100 年先に誇れる駅舎」
 - 「日常的なにぎわいのある人が集まる場所」
 - 「交通、情報、人、時間の接点として安心な機能」
- (3)駅舎機能へのニーズと具体的なアイデア



本物の歴史の魅力がある遠野駅舎に毎日「行きたい」「便利で安心」機能が加わることで、市民も観光客も世代を問わずに集いまちなか活性化の拠点となること、まちの歴史を伝える未来への地域資産となることが望まれています。

※4 「申入書」 平成 29 年 6 月 5 日

東日本旅客鉄道株式会社 執行役員盛岡支社長 大内敦様
遠野市長 本田敏秋 遠野駅舎の未来を考える会会長 河野好宣

(内容抜粋)

「この度は、今後一層の事業推進のため、ワークショップにより提案された市民の声を基にした駅舎の活用案策定と、今後の遠野駅舎を核としたまちづくりに貴社のご助言をご協力賜りたく、協議体制の構築につきまして申し入れをいたします。」
「遠野駅舎の未来を考える会では、平成 27 年 2 月 9 日の結成以来、各活動の機会に、遠野駅舎への思いと駅舎を核としたまちづくりへの思いを共有してまいりました。昨年は、市民ワークショップ及び遠野市中心市街地活性化協議会によるアンケート調査を実施し、遠野駅舎の景観への愛着と、人が集う場所づくりへの期待の声が多く寄せられております。」
「これらすべての基本となってきた遠野駅舎は、『永遠の日本のふるさと遠野』を標榜し、地域資源を活かしたまちづくりを進める当市にとってまさに地域の宝であります。」

【遠野駅舎・遠野市】

- 1912(大正元)年
 - 9 月 岩手県稗貫郡花巻町(後の花巻市)ー 上閉伊郡遠野町(後の遠野市)ー同郡上郷村沓掛(後の遠野市)間 64.8km の鉄道敷設工事開始(岩手軽便鉄道)
- 1914(大正 3)年
 - 4 月 18 日 岩手軽便鉄道により貨物駅として開業
 - 5 月 15 or 19 日 旅客営業開始
- 1936(昭和 11)年
 - 8 月 1 日 岩手軽便鉄道の国有化により、国鉄釜石線の駅となる
- 1949(昭和 24)年
 - 12 月 10 日 遠野以西の改軌工事完成。以東の軽便鉄道区間への乗換駅となる
- 1950(昭和 25)年
 - 10 月 10 日 国鉄釜石線全通
 - 鉄筋コンクリートブロック造 2 階建、瓦葺の現駅舎竣工
- 1954(昭和 29)年
 - 12 月 1 日 青笹村・綾織村・小友村・上郷村・附馬牛村・土淵村・松崎村が合併し、遠野市となる
- 1984(昭和 59)年
 - 6 月 遠野地方の民俗の伝承を目的とした「遠野伝承園」開館
- 1985(昭和 60)年
 - 「遠野市 HOPE 計画(地域住宅計画)」による地場産木材を使った大工町通りの整備
- 1987(昭和 62)年
 - 4 月 1 日 国鉄分割民営化により JR 東日本の駅となる
- 1994(平成 6)年
 - 遠野市下一日市地区区画整理地、城下町として栄えた町家文化を伝える蔵造りの街並み整備
- 1995(平成 7)年
 - 7 月 7 日 駅舎 2 階に JR 東日本による宿泊施設「Folklore 遠野」開業
- 1998(平成 8)年
 - 8 月 江戸中期から明治中期にかけてつくられた曲り家を移築した「遠野ふるさと村」開村
- 2002(平成 14)年
 - 東北の駅百選に選定される
- 2005(平成 17)年
 - 10 月 1 日 (旧)遠野市が上閉伊郡宮守村と合併し、新制の遠野市が発足
- 2009(平成 21)年
 - 中心市街地における賑わい創出を図る「遠野市中心市街地活性化基本計画」策定
 - 「永遠の日本のふるさと遠野」を目指す
 - 駅前に、駅舎の外観との景観を意識したまちおこしセンター「あすもあ遠野」、町家と蔵を基調とした「観光交流センター」の整備
- 2012(平成 24)年
 - 11 月 10 日 遠野駅旅行センター廃止
- 2013(平成 25)年
 - 4 月 27 日 文化の拠点「とおの昔話村」が、「とおの物語の館」としてリニューアルオープン
- 2014(平成 26)年
 - 4 月 SL 銀河の運行。
 - 5 月 「遠野物語を核とする民俗学と建築文化の振興および歴史的町並み修景の業績」として、「建築学会文化賞」受賞
 - 9 月 遠野市に駅舎の規模を縮小した建て替えを提案
- 2015(平成 27)年
 - 1 月 15 日 新聞報道により、JR 東日本盛岡支社が「老朽化による遠野駅舎の縮小建て替えの方針」を示す
 - 1 月 23 日 「遠野駅舎の未来を考える会」臨時開催
 - 市民関係団体代表等 22 名、市長・市職員 32 名、合計 54 名
 - 遠野駅舎の未来を考える会情報共有資料(※1)
 - 2 月 9 日 市民による「遠野駅舎の未来を考える会」を正式に立ち上げる
 - 市内関係団体代表等 33 名、市長・市職員 30 名、市議 2 名、合計 65 名
 - 2 月 23 日 JR 東日本盛岡支社へ趣意書提出(※2)
 - 考える会会長・副会長、市長、議長。対応者、JR 東日本盛岡支社 4 名
 - 3 月 14 日 「Folklore 遠野」営業終了
 - 3 月 18 日 JR・遠野市事務レベル協議
 - 遠野駅舎の現況確認のための JR 東日本盛岡支社訪問。
 - まちづくり担当部長他 2 名。対応者、JR 東日本盛岡支社 4 名
 - 4 月 1 日 遠野駅舎の未来を考える会会報『まっちゃ PRESS』発行(NO.1〜10)
 - 5 月 12 日 遠野駅舎・中心市街地活性化市民シンポジウム @あえりあ遠野
 - 全国から中心市街地活性化推進協議会のメンバー約 220 名参加
 - 6 月 12 日 JR・遠野市事務レベル協議(駅舎の耐震状況確認)
 - 12 月 28 日 JR・遠野市事務レベル協議(駅舎の今後の方向性について)
- 2016(平成 28)年
 - 2 月 3 日 遠野駅舎の未来を考える会全体会議
 - 8 月 18 日 平成 28 年度第 1 回遠野駅舎の未来を考える会
 - 10 月 13 日〜12 月 8 日 遠野駅舎の未来を考えるワークショップ(全 5 回)
- 2017(平成 29)年
 - 2 月 27 日 遠野市議会定例会一般質問(駅周辺のまちづくり対策について)
 - 5 月 23 日 遠野駅舎の未来を考える会代表者会議
 - 6 月 5 日 JR 東日本盛岡支社へ協力体制構築について申入書提出(※4)
 - 6 月 12 日 遠野市議会定例会一般質問(駅舎の利活用について)
 - 7 月 11 日 平成 29 年度第 1 回遠野駅舎の未来を考える会
 - 12 月 11 日 JR・遠野市事務レベル協議
- 2018(平成 30)年
 - 5 月 23 日 JR・遠野市事務レベル協議
 - 6 月 1 日 遠野駅長が廃止され、北上駅長管理下となる
 - 6 月 1 日 平成 30 年度第 1 回遠野駅舎の未来を考える会
 - 6 月 2 日 岩手日報「遠野駅舎、新築案に合意 市建て替え方針で市民団体」
 - 7 月 24 日 遠野駅舎保存へむけて市民有志署名活動開始
- 2019(平成 31)年
 - 2 月 18 日 遠野市中心市街地活性化対策プロジェクトチーム設置
 - 2 月 25 日 平成 30 年度第 2 回遠野駅舎の未来を考える会
 - 2 月 26 日 岩手日報「市、改めて新設主張 市民団体と平行線」
 - 3 月 27 日 遠野駅舎保存へむけて 10,000 人が署名
 - 5 月 14 日 礼和元年第 1 回度遠野市中心市街地活性化協議会総会
 - 5 月 15 日 岩手日報「JR 遠野駅舎の保存断念 市、解体後の構想案提示」
 - 5 月 17 日 礼和元年度第 1 回遠野駅舎の未来を考える会
 - 5 月 18 日 岩手日報「JR 遠野駅舎解体反論出す 市民団体と市会合」